

芦屋町 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊とは？

人口減少や高齢化などが進む地方で、地域外の人を受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その地域への定住・定着を図ることで、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。

▷問い合わせ シティプロモーション係 (☎223-3571)

わきた あゆみ
脇田 彩友美

福岡県糟屋郡出身の芦屋町地域おこし協力隊6号



芦屋釜に関するマンガをいくつか書かせていただいたのですが、芦屋釜の作り方について描いていないことに気づき、作り方のマンガを描くことにしました。

いざ描こうとすると、全然わかりませんでした。

改めて芦屋釜の図録や町のホームページ、製作工程の動画を観てマンガを作成しました。芦屋釜の里に何度も足を運んで、資料室で作り方など見ていたのですが、マンガを作成するにはもっと知識が必要だな、と感じました。

読んでくれる人にわかりやすいマンガを作成できるようにもっと精進します！



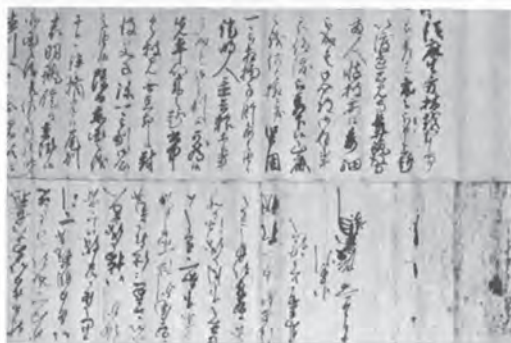
芦屋歴史紀行 その三百六十一

今年の大河ドラマは、豊臣秀吉の弟、豊臣秀長が主人公です。では、豊臣秀長が生きた時代の芦屋はどうだったのでしょうか。最終回は、秀吉・秀長兄弟が活躍した時代から江戸時代に入るまでを紹介します。

●豊臣秀吉と麻生氏

大内氏の滅亡後、大友氏に攻められ、衰退してしまった麻生氏ですが、その後毛利氏に従います。毛利氏は、天正5（1577）年以降、織田信長・羽柴秀吉によって中国攻めを受けます。その最中に、本能寺の変が起きたことをきっかけとする秀吉の交渉によって、和睦を結び、秀吉の臣下となります。以降、麻生氏も同様に、秀吉の下に就き、九州平定にも参加し、戦うこととなります。

いました。この戦功により、麻生氏の下へ秀吉から、戦での手柄をほめる内容の書状が届いています。



小早川隆景から麻生家氏への書状
(麻生文書 芦屋町誌より転載)

秀吉は、天正15（1587）年3月に九州入りし、5月に島津義久の降伏を受けました。そして、6月に秀吉は箱崎（福岡市）で論功行賞を行います。これにより、家氏は筑後に土地を与えられ、筑前を離れることになりました。麻生氏が筑前を離

れたことで、山鹿城は廃城になったとされます。このとき、筑前には、小早川氏が入封しました。

●黒田長政の筑前入封

慶長5（1600）年、関ヶ原の戦いで、徳川家康が石田三成に勝利します。

そして、家康に味方した、筑前の小早川秀秋はその功を認められ、備前岡山へ移封、筑前には黒田長政が入封します。家氏は、これ以降、黒田藩の客分（家臣でない、対等な身分の武将）となり、妻に孝高の妹のお虎（のちの妙圓尼）を迎えるなど、黒田家との縁を結んでいきました。

しかし、家氏はのちに、黒田藩を出奔し、唐津・寺沢藩の客分となります。当時、天草・島原は唐津藩の領地となっていました。その後、家氏は天草・島原の乱で戦い、戦死したとされます。

その後、家氏の弟・麻生家勝が長政に仕え、麻生家を再興し、黒田藩士として続いていきます。

（芦屋歴史の里）

編集後記

▼今号の表紙は、リニューアルオープンした魚見公園で遊ぶ子どもたちの写真です。展望所だけでなく、展望所へと続く遊歩道も整備されました。季節ごとにさまざまな景色が楽しめますので、散策にもオススメです。リニューアルオープンした魚見公園へ足を運んでみてください。

（篠塚）

▼6ページのまちのわだいに掲載している西祇園橋のお絵描き会の取材に行きました。こどもたちは、友達とおしゃべりしながら、完成前の真っ白な橋に水性ペンでのびのびとお絵描きをしていました。橋を塗装してしまうため、このお絵描きは見えなくなってしまうのですが、こどもたちにとって、忘れられない貴重な体験になったと思います。

（伊藤）

▼4月より異動してきました山城です。3月までは議会事務局にいました。職員一丸となってよりよい広報紙を作っていきます。4月は釜の里の茶花を生ける講座や町内卓球大会など、たくさん取材に行きました。初めて触るカメラに戸惑いましたが、これからのいい写真を撮れるよう、がんばります！

（山城）

